

(株)フージャースコーポレーション

housing

竹中さんがいる会社で働こう!

リビングアドバイザーを募集!

(株)フージャースコーポレーション

求める人材

「社員の個性が当社の財産。年齢や性別を超えた採用を行っています。接客やコンサルティング経験のある方はもちろん、未経験の方でも明確な目標を持つ方なら大歓迎です。さまざまな業界で実績を残してきている先輩たちと出会えますよ!」(人事室 竹島美紀子さん)



会社DATA

- 事業内容/新築分譲マンションの企画・販売
- 設立/1994年12月
- 資本金/1億2750万円
- 売上高/39億100万円 (2002年3月期)
- 従業員数/61名
- 女性従業員比率/60%
- 女性管理職比率/8%

採用情報

- 職種/リビングアドバイザー
- 資格/宅建取得者優遇
- 給与/月給23万円以上十歩合給 ※研修期間3か月間は月給21万円
- 勤務地/都内および埼玉県内のモデルルーム
- 勤務時間/9:30~18:00
- 休日休暇/毎水曜、第1・3火曜、夏季、年末年始休暇、個人ごとに定める休日、有給、特別休暇ほか
- 応募/履歴書(写真貼付)を郵送。面接日は書類選考後通知。面接は下記本社にて行います
- 交通/有楽町線麹町駅徒歩4分ほか
- 所在地/〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-3 南部ビル2階 ☎03-3556-6681 ●担当者/竹島

「一生モノの住宅購入!」
住宅購入の意思を持ったお客さまの夢を共有できるのがこの仕事の醍醐味です。強い意思があるのに、不安や障壁がある場合は、それを解決するためにガゼン張りきります! 私どもの仕事で一番大切なのは、売ることではなく、情報を提供すること。私どもの物件は女性による生活に即した設計が行われており、私自身も共感できるものばかり。それをお客さまの心にも響かせるため、的確でわかりやすい表現を常に心がけています。ローンや税金などのアドバイスも大切。家計簿のつけ方までお教えすることも。こうしたことがきちんとできてい

ば、1日で契約成立することも珍しくないんですよ。逆に、購入する意思のないお客さまを力ワザでねじらせるようなことはできません。それどころか、お客さまの夢が心もとなない場合は、つい指摘しちゃいます。
「キャリアを積みつつ、3人の子育て、パワーの源は、正直大変。前職では短期間の単身赴任で留守することがありましたが、でも、前職、現職ともに女性のキャリアを大切にしてくる会社に巡りあえ、家族の協力があったら15年間も続けてこれた。『家族に協力を求める分、仕事にも全力を尽くそう』という気持ちで私に原動力でした。仕事をしていて良かったという気持ちの後輩にも教えたいから、後輩が子育てしながら働きやすい環境を作るよう、社内制度充実のための提案も。現在は、育児休暇や通常より短い時間で働ける職種の設置(予定)なども行われています。」

竹中泰子さん(45歳)

営業部 営業一課 課長



休暇を利用して家族とグアム旅行。3人のお子さんも成長し、竹中さんの仕事への姿勢を応援している。

仕事にも子育てにも情熱が大切!
3人のお子さんを育てた経験から、働き続ける楽しさを後輩に教えたい



たけなやかやすこ●30歳で専業主婦から化粧品メーカーの営業スタッフに。9年間勤務したのち、1998年7月に現社に入社。現在は営業スタッフとして活躍するほか、5人のスタッフの統括、新人の教育などを行う。

注:一定以上の能力があると判断された場合には、育児などの理由による勤務の制限を認める制度。

仕事に対する情熱と家族への愛には脱帽です

竹中さんはとにかく情熱的な方。常に妥協を許さない仕事ぶりの裏で、あたたかい家庭を築いてくれたのも、仕事への集中力とともに誰に対しても血の通ったつながりを大切にしているから。とはいえ、旦那さまへの愛は格別みたい(笑)。受付業務から営業への異動を知らされて、不安を抱いていた私に竹中さんがかけてくれた言葉が印象的でした。「会社がチャンスを与えてくれたのだから、自信を持ってやりなさい」と。これまでも何にも前向きにチャレンジし、それを糧にできた竹中さんならではの力強い言葉に励まされました。

竹中さんのこんなトコロが目標!



後輩の原田理奈さん(24歳)

短大卒。2年間事務スタッフを経験したのち、1998年3月に現社に入社。昨年4月よりモデルルームの受付業務から営業に異動。

生活者の視点から物件を語ることができる



当社では高齢の方やお子さまに優しいユニバーサルデザインを提唱しているのですが、竹中さんがご自分の経験の中からお客さまにお話すると、言葉が活きてくるんです。

誰に対しても、自分の意見をきちんと言う



社内ではもちろん、お客さまに対しても決して嫌びない(笑)。自分の意見ははっきり言うんです。たとえ耳の痛い言葉でも、その誠実さが周りに信頼感を与えるんですよね。